

普通科「工業に関するコース」の設置について

県教育庁企画管理部教育政策課

県教育委員会では、平成30年3月、県立学校改革に関する基本的な考え方を示した「県立学校改革推進プラン」の一部改訂を行うとともに、改訂した内容を含めたプランに基づき、「第4次実施プログラム」を策定した。プランでは、生徒の地元への就職や地域の活性化等を考慮して、ものづくりを担う人材を育成するなど、工業教育の充実を図るため、県内初の取組として、普通科に工業に関するコースを設置することとした。具体的には、市原市の姉崎高校に「ものづくりコース」、富津市の天羽高校に「工業基礎コース」を令和2年4月から設置する。

プログラムに明記している両コースの教育内容は、三点ある。一点目は、「1年生で、地元のものづくりに関して理解を深めること」、二点目は、「地元自治体や関係機関の協力を得ながら、連携企業における実習を重視したカリキュラムとすること」、三点目は、「就職してから役立つ資格取得を目指すこと」である。

第1期生となる現在の中学3年生は入学後、2・3年生の2年間で工業系コースを選択することが可能となり、普通教科に加え、工業の専門科目を学習することができる。

昨年度、両校では、工業教育の拠点校である千葉工業高校をはじめ、他県の工業系高校を視察するなど、魅力あるコース設置に向けた準備を進めてきた。今年度は、教育課程の編制や、工業実習室の設計など、来年度からのコース設置に向け更なる準備を進めている。

【県立姉崎高等学校】

姉崎高校は、昭和53年4月に開校した創立42年目を迎える学校である。学校周辺には考古学上貴重な古墳が点在し、近くには「明神の森」とうたわれる姉崎神社があり、日本武尊伝説の舞台となっている。姉崎高校では、きめ細やかな学習指導と徹底した生徒指導に取り組んでいる。夢を語り、夢を育み、夢を実現する学習・進路指導を目指し、基礎・基本の徹底と進学に対応した補習等の充実とともに、学校斡旋就職内定率100%などの就職支援に取り組んでいる。

【県立天羽高等学校】

天羽高校は、明治35年9月、湊町外10ヶ町村組合立実業補習学校としてスタートした。その後、県立天羽農学校を経て、昭和25年4月、現在の校名になった。天羽高校は、創立118年目を迎え、歴史と伝統のある学校として、「天高（あまこう）」の名で地域の皆さんに親しまれている。平成24年度からは、「地域連携アクティブスクール」となり、自立した社会人の育成を目指し、「真剣努力・愛汗親土」の校訓のもと、『やればできる、やったらできた』、『ダメなものはダメ』をスローガンに教師と生徒が一体となって学校生活を送っている。



「企業での実習の様子」撮影協力 日本製鉄(株)

千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品している。

平成30年度の全国展では、千葉県から出品された作品が数多く特別賞に輝いた。その中からいくつかを紹介する。

★第55回全国児童才能開発コンテスト科学部門

・日本PTA全国協議会会長賞

「千葉県の砂浜の砂2018」

南房総市立三芳小学校 5年 北鹿渡 佑生
審査評 銚子から内房までの膨大な砂を採取し、3年をかけて、砂浜の色の違いについて身近な素材を活用した実験で丁寧に解明している。

・学研賞

「テントウムシ びっくり 大へんしん！」

千葉市立宮野木小学校 1年 谷本 瑛音
審査評 テントウムシが卵から成虫になるまでを詳しく観察した。エサの好みや、飛び方、走光性などについても実験し、丁寧にまとめた。

・財団科学賞

「ミミズがぼくに教えてくれた事Ⅲ

～フンカイの優れた活用法とミミズの嗅覚実験～
 千葉市立緑町小学校 6年 篠原 光喜
審査評 ミミズのフンカイの量と発芽の関係を単に発芽の有無だけにとどまらず根の太さや長さについて調べることで明らかにした。

★第62回日本学生科学賞

日本科学未来館賞

「ゲル法による大粒のアラゴナイト結晶の作成」
 芝浦工業大学柏中学高等学校 2年 武藤 美佑
審査評 実験条件の設定が正確で、定量的な分析を实践できており素晴らしかった。長時間反応による大粒結晶の作成にも挑戦してほしい。

★第77回全日本学生児童発明くふう展

日本弁理士会会長賞「ビーダマプレーヤー」

千葉市立花園中学校 1年 中澤 里菜



審査評 曲を選択するとビーダマがけん盤に転がり、演奏する。プログラミングが駆使され、手書きの音符を読み取り演奏できる工夫がある。

※他にも千葉県から18人の児童生徒が入賞した。

詳しくは県総合教育センターWebサイト「優秀作品選集」を御覧いただきたい。

また、令和元年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展は、10月12日（土）13（日）の2日間、県総合教育センターで一般公開する。是非お越しいただきたい。

※**審査評**は「優秀作品選集」のものを抜粋。

開館30周年記念企画展

「ほにゅうるい」のご紹介と千葉県のは乳類

県立中央博物館

令和元年度の県立中央博物館の企画展のテーマは「ほにゅうるい」。身近な動物たち、動物園の人気者、ちょっと変わった珍獣まで、世界・日本・千葉県に生息する多様なほ乳類のはく製やホネを展示して、かたちや暮らし方を紹介します。

今回の展示のみどころを簡単に紹介します。

●あつまれ「ほにゅうるい」: ホッキョクグマ、ジャイアントパンダ、カモノハシ…。世界の珍獣、動物園の人気者、身近な種も大集合！いろんな「ほにゅうるい」の、はく製やホネをくらべてみましょう。

●千葉にきた幻の「ツノシマクジラ」: 2017年夏に千葉県勝浦市に漂着した稀少種ツノシマクジラ。当館が回収した、日本で4個体目となる貴重な標本を公開します。

●くらべてみよう「ほにゅうるい」: ほ乳類のおもさ、かたち、おおきさなどを、模型などのハンズ・オン資料で再現しました。常設展のマッコウクジラの頭骨を縮小して3Dプリントした模型も展示しています。さわって、くらべることで、ほ乳類を体感して理解を深められるように工夫しました。

●クジラの仲間はカバ？ほ乳類研究の最前線: 近年の分子系統学による研究で、ほ乳類の進化や系統分類の学説は大きく変わりました。最先端の情報を、わかりやすく紹介します。

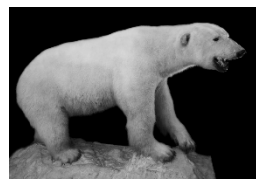
●どうなっているの？千葉県のほ乳類: 外来種のキョンやアカゲザル、絶滅危惧種のアカギツネやスナメリ。身近なほ乳類の問題を、最新のデータで解説します。

●星野道夫さんミニ写真展: アメリカやカナダの極北の自然に暮らすほ乳類のありのままの姿を、美しい写真を通して伝えます。

さて、企画展「ほにゅうるい」では千葉県のは乳類相の特徴も解説します。日本全体では陸に棲むほ乳類だけでも110種以上が知られていますが、現在の千葉県には何種類のは乳類が生息しているのでしょうか？答えは、外来種を含めて、陸に棲む種類は34種、海に棲む種類は20種以上です。しかし、お隣の埼玉県では、陸に棲む種類が50種以上知られています。どうして千葉県のは乳類の種類が少ないのでしょうか？主な理由は三つです。一つ目は、標高の高い山がないため、例えばオコジョなどの高山に棲む種類がいません。二つ目は、森林性の大型種、例えばツキノワグマやニホンカモシカがいません。三つ目は、樹木の穴（樹洞）に棲む種類がニホンリスなど一部の種しか生息しておらず、ムササビやモモンガ、樹木の穴に棲むタイプのコウモリの仲間がいません。ちなみに、ムササビの骨は縄文遺跡からは出土しており、今は生息が途絶えたことが分かっています。企画展ではこれらの種類の実物標本を展示します。今年の夏休みは、中央博物館で「ほにゅうるい」たちに出会ってみませんか？

詳しくは

<http://www2.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>



ホッキョクグマのはく製
(県立中央博物館蔵)

令和元年度企画展 「龍角寺古墳群とその時代」

県立房総のむら

龍角寺古墳群が築かれたのは、6世紀の終わりから7世紀前半の、ヤマト王権と地方豪族の紐帯(ちゅうたい)を基盤とする体制から中国隋・唐王朝の律令制度にならった新たな体制に大転換する時代であった。仏教を本格的に取り入れたのもこの頃である。

龍角寺古墳群は、各地の首長墓がヤマト王権の象徴であった前方後円墳から方墳へ変換する時期に最盛期を迎え、列島最大級の方墳・岩屋(いわや)古墳を築いている。被葬者が「印波(いんば)」を代表する豪族として関東の頂点に上りつめたことがうかがえる。まもなく、大和山田寺の流れを汲む龍角寺が建立され、白鳳(はくほう)仏がもたらされるなど、当地の豪族は栄華を極めた。しかし、平城京が築かれた頃には一地方官(埴生(はにゅう)郡の郡領)となって新たな体制に組み込まれてしまう。

企画展では、7世紀最大級の方墳を築いた印波の首長が、この時代にどのような運命をたどったのか、近年の考古学・歴史学の成果から考えることにしたい。



岩屋古墳と龍角寺古墳群遠景

1 開催期間

令和元年10月12日(土)～12月8日(日)
月曜日休館(月曜が祝休日の場合は翌平日)

2 展示会場

風土記の丘資料館 2階第2展示室

3 展示構成

＜プロローグ＞－飛鳥の風は吹いたか－

I 最後の前方後円墳

II 副葬品からみた「飛鳥時代」の古墳

III 大型方墳・円墳の築造と寺院の建立

IV 古墳時代から律令制の時代へ－埴生郡の成立と「印波国造」のその後－

＜エピローグ＞－前方後円墳の終焉と「飛鳥時代」の変革－



浅間山古墳出土冠飾復元品

4 関連行事

(1)考古学講座

第1回 6月23日(日)

第2回 8月25日(日)

第3回 10月27日(日)

第4回 12月1日(日)

(2)ギャラリートーク(展示解説)

10/20(日)、11/10(日)、12/7(土)

13:30～14:00 於: 第2展示室

5 問合せ先

千葉県立房総のむら

電話: 0476-95-3333 Fax: 0476-95-3330

E-mail: mura@chiba-muse.or.jp